

令和6年度第1回学校運営協議会議事録

さいたま市立慈恩寺小学校

1 日時・場所 令和6年6月13日(木) 10:00~12:15・校長室→Sola るーむ

2 出席

【会長】	新井 英雄	鹿室自治会長
【副会長】	駒宮 寿夫	さいたま市立鹿室南集会所長
【委員】	深井 幸子	主任児童委員・チャレンジスクール実行委員長
	丸山 朝夫	裏慈恩寺貝塚自治会長・防犯ボランティア
	星 富夫	グリーンクレスト前自治会長・防犯ボランティア
	遠藤 実	交通指導員
	大久保 俊雄	宝国寺幼稚園長
	新井 有理	慈恩寺中学校 PTA 会長
	村上 加奈恵	慈恩寺小学校 PTA 会長
	笠原 芳美	慈恩寺小学校長
	尾坂 俊哉	慈恩寺小学校教頭
	大和田 悠	慈恩寺小学校教務主任
	森 靖夫	慈恩寺小学校地域連携コーディネーター

【欠席】 高波 國夫 慈恩寺中学校長

3 次第

- (1) あいさつ(校長・教頭・教務・地域C)
- (2) 校内授業参観
- (3) 委託状・任命書交付
- (4) 児童会自己紹介・活動報告
- (5) 委員自己紹介
- (6) 会長・副会長選出
会長:新井英雄様 副会長:駒宮寿夫様
- (7) 開会の言葉(会長) “良いことは 行為を見ていなくても伝わる”
- (8) 学校経営方針等説明(校長)
 - ・学校自己評価システムシート
 - ①エージェンシー(主体性)を育み、笑顔・自信・学力をつける。
 - ②安心・安全で美しい学校づくり(ISS→未来へ)
 - ③保護者・地域から信頼される学校となるCS
 - ④教職員の Well-being を実現する資質向上と働きがいのある職場環境づくり
(教職員自ら学び研修する態度)
→体験活動をもとに、笑顔・自信・学力をつける
 - ・令和6年度の学校運営協議会について(教頭)
 - ①子どもの活躍の場の創出
<学びを生かす場面・他者との協働・自身の生活を変えられたと実感>
 - ②熟議テーマ
<挨拶を実感をもって日常的に交わせるように> 各所で実践可能な取組を
- (9) 熟議
 - ・宝国寺幼稚園長
友達になる第一歩として小さな頃からあいさつを指導している。
 - ・チャレンジスクール代表
校内では徐々に元気な声に変わる。地域に出ると児童は警戒し交わせない。
以前と比べ児童に声をかけづらいとの声。地域の方は目印のようなものを付けていくのは。

- 市ながら見守りボランティアに登録すると名札が届く。
- ・交通指導員・自治会長・防犯ボランティア
地域の者から挨拶をされても児童がなかなか返せない。
- ・鹿室自治会長
挨拶して褒められると、自信がつくのでは。自身の幼い頃の記憶に残っている。
大人が誠意をもって接することが大切。
- ・交通指導員
家庭での挨拶についての会話の重要性。挨拶は心を通わせる手段。だから目線を合わせて挨拶する児童から学んだ。家族や家庭内での挨拶も。
- ・防犯ボランティア
大川家具の信号機でも、徐々に「さようなら」の挨拶が返ってくるようになった。
自治会内でも声をかけられることがある。嬉しい。
- ・防犯ボランティア
小中学生へ、地域への協力を考えるように意識を向けさせたい。
防災倉庫での見学等を活用してはどうか。
- ・貝塚団地自治会長
森田床屋で下校見守り。教員が見送りに来た際、なぜ来たか迎えに来た方への説明を
してもらいたい。自治会で夏休みに思い出に残ることを実施しよう(花火大会)、芋掘り(6/23)
- ・グリーンレスト自治会長
自治会でのハロウィンイベント等実施している。子ども会として維持している。
- ・鹿室南集会所長
夏のイベント企画。北部公民館でも。
- ・宝国寺幼稚園長
ぜひ幼小での交流会を継続したい。
- ・慈恩寺小 PTA 会長
自転車用看板(B5)を周知している。自転車・車での使用を意識した形。名札型の作成もよいか。
- ・慈恩寺中 PTA 会長
小学校での取組を中学校にも継続すること。学力以外の心も可視化することができれば。
- ・主任児童委員
コロナ前の「まちたんけん」事前に歩き協力する方の家を知る場面があった。
互いに知る場面が多ければよいのではないか。親子の会話の減少を感じる。
家庭での会話の重要性。まずは朝起きた時の挨拶。
地域の人材を学校で児童に見せることもよいのではないか。
- ・学校長
挨拶についてのよいモデルを校内でも広める。学校・家庭でも良いものを見せていく。
- ・鹿室南集会所長
あいさつ一つで仕事が増える。生活が変わる。学校が本気だよと示す。
家庭教育力の低下は問題。地域教育力の難しさもある。その中で挨拶は誰にでもできる。
相手を見る必要。気づくこと。挨拶運動の展開を。いつでも誰にでも何度でも。
大人は挨拶の重要性を伝え続ける。ポイント制での取組も続けることで慣習化できる。
低学年での習慣化を。よいことと実感させ、認められる体験をさせること。
教育として不易のあたりまえのことを応援していきたい
- ・運営協議会会長
現地現物現任の重要性・確認すること。前回給食を対応してくれた児童と再会した。
接することは大切。誠意をもって接すれば後から返ってくる。
チャレンジに来てくれる中学生。つながっていくことの素晴らしさ。

(10) いじめ対策委員会（生徒指導主任）

- ・昨年度いじめ報告案件
- ・心を元気にする4つの言葉
- ・いじめ撲滅スローガン作成
- ・挨拶の推進

(11) 事務連絡等（教頭）

- ・第2回 10/29(火)10:00～(予定)給食 挨拶についての変化 実践等教えてほしい
- ・第3回 2/13(木)
- ・家庭に協力を依頼してのイベントを企画していきたい

(12) 閉会の言葉（副会長）